

尿道留置カテーテル使用率

QI 項目の解説

入院されている患者さんのうち尿道留置カテーテル使用による尿路感染は、ハイリスク患者では膀胱炎、腎盂炎、敗血症に至ることがあるため、管理の徹底に努めています。

尿道留置カテーテル使用率割合

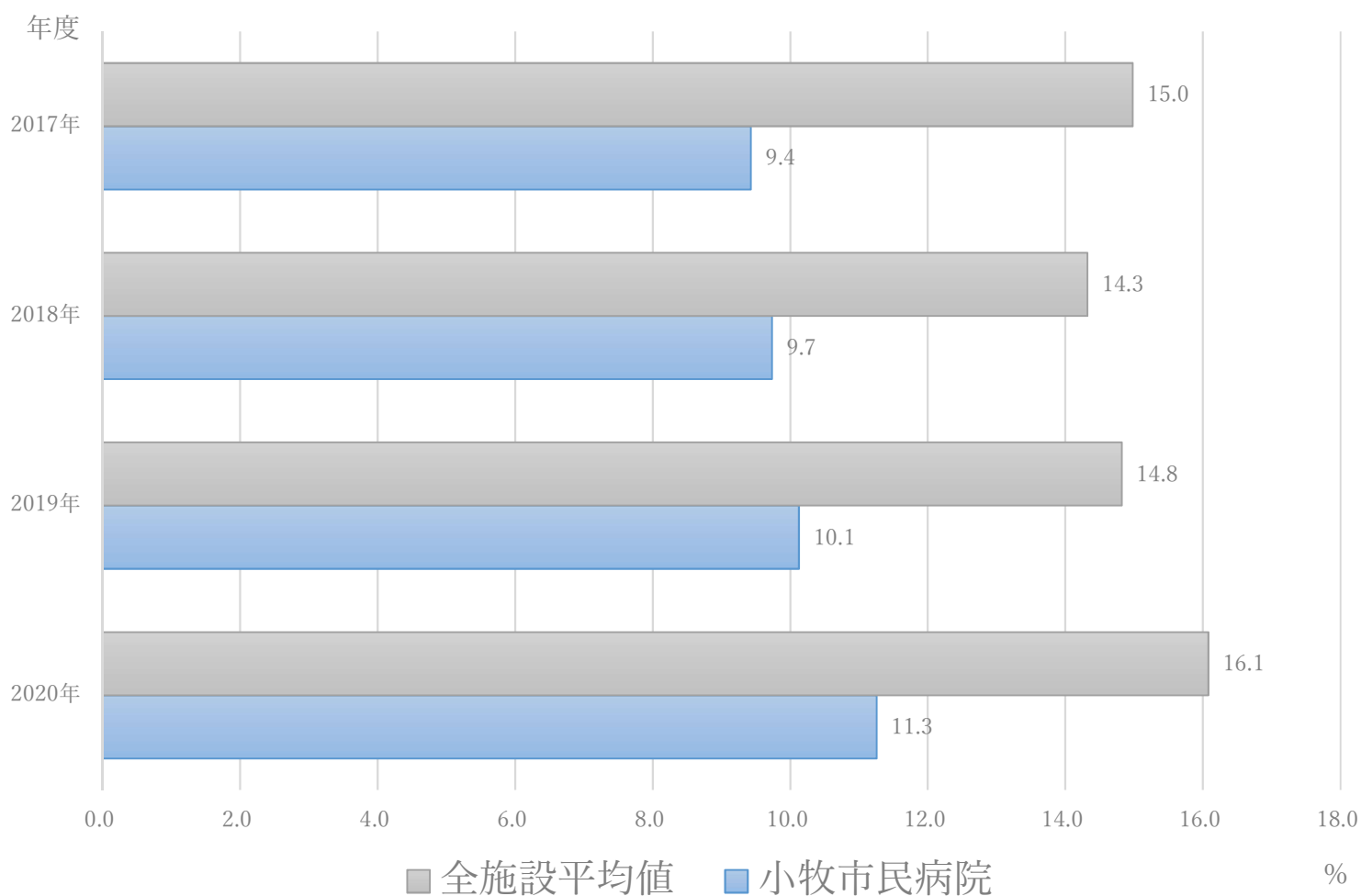
指標の定義・計測方法

分子：尿道留置カテーテルが挿入されている入院延べ患者数

×100【%】

分母：入院延べ患者数

尿道留置カテーテル使用率



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

当院が適切に挿入・抜去できています。

尿道留置カテーテル使用率は全施設平均より下回り、排尿ケアチームの院内啓発、教育により不要な留置を回避するように指導しており、その成果と考えます。

2020 当院データと 2019 当院データとの比較・原因分析

2019 年データより微増の傾向が見られます。排尿ケアチームでは部署別の留置状況、留置理由をフォローしていますが、泌尿器科手術症例（前立腺癌手術）と集中治療症例の増加により絶対的留置適応症例が増加したことが原因と考えます。

数値改善に向けた今後の取り組み

例年どおり、サーベイランスによる評価と部署へのフィードバックを行い、目立って使用日数が長い場合は、指導を行います。ウロバックの適切な取扱いを確認する。尿道カテーテル留置の絶対的適応、相対的適応について従来通り周知し、不要なカテーテル留置を早期に抜去することを排尿ケアチームとリンクナースにより徹底しています。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

評価に問題がないため、サーベイランスのフィードバックのみを実施し、当院では排尿ケアチームの介入により、排尿自立支援を病棟スタッフと包括的に継続しており、改善策としては十分に実施を継続していると評価しています。